



# の いる 風景

## 中川 晃 さん



【なかがわ あきら さん】 62歳 文京

●「しこつ湖自然体験クラブ\*トゥレップ」の代表理事を平成15年から務める

### 自然のすばらしさを感じて みませんか

「トゥレップ」とは、アイヌ語で「オウバユリ」を指す。花が咲くまでに約10年の歳月を要し、その根は、「溶けるもの」、「消えるもの」という意味がある。「自然の中に溶け込み、息長く活動し、美しい花を咲かせたい」という思いから、会の名称にしました」と話すのは、「しこつ湖自然体験クラブ\*トゥレップ」の中川さん。

このクラブは、支笏湖に代表される自然のすばらしさをもっと感じたい、健康で自然と調和した暮らしを将来も続けたい、かけがえのない自然を守っていききたいなど、これらの願いを共にする人たちが楽しく活動することを目的としている。

現在、トゥレップの代表理事を務めている中川さん、若いときは、どこに行くにも自動車を使う生活をしてきたと言っ。「40歳のとき、妻から『もっと体を動かさないと、さみしい老後を送ることになるわよ』と言われたひ

と言がきつかけとなり、それから自然の中を散策したり、山登りなどを始めた」と笑う。

その後、日本自然保護協会が認定する自然観察指導員の資格を取得して自然観察会などを始めたが「何か物足りなく、もう一歩踏み込んだ活動がしたいと思っていた」と言い、「トゥレップは、その思いを同じくする指導員の仲間や専門家の力を借りて、平成15年に設立した」と話す。

主な活動は、千歳川上流のウサクマイで市民向け自然観察会の開催、支笏湖、千歳川、美々川でのカヌー体験、支笏湖の清掃作業、子どもたちと毎年続けている「ママチ川生き物調査」、支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会の呼びかけに応じた、植林や下草刈りなどのほか、今年で13年目になるウトナイ湖に生息する「外来種オオアワダチソウ」の駆除も続けており、「確実に成果を上げている」と話す。

この他に冬期間は、オジロワシ・ウオークや支笏湖外輪の山々でスノーシューハイキングを行っている。

「これまで、一番印象に残っていることは、『千歳川頭首工改築工事』のとき、他の団体や地域の皆さんと一緒に提案した、より自然にやさしい工法が採用されたこと、千歳川上流域の自然を守る『第一種自然環境保全地区』指定のとき、範囲拡大に関わったこと」と振り返る。

「5月28日(土)にトゥレップ定例の講演会を北ガス文化ホールで開催します。講師に、サケのふるさと千歳水族館の菊池館長をお招きして『リニューアルオープンした千歳水族館の魅力について』の講話があります。皆さんも、ぜひ、ご来場ください」と楽しく語ってくれました。

※講演会の申し込みは、19ページ「しこつ湖自然体験クラブ『トゥレップ』のお知らせ」をご覧ください。